

平成 25 年度国立大雪青少年交流の家第 3 回施設業務運営委員会管理運営部会議事要旨

日時：平成 25 年 11 月 12 日（火）13:00～15:05

場所：美瑛町図書館会議室

運営委員出席者：瀬川部会長，村田委員（代理：松本委員）片岡委員，
笠井施設業務運営委員会委員長（オブザーバー）

計 4 名

欠席者：山内委員，西海委員

計 2 名

国立大雪青少年交流の家出席者：三上所長，澤田総務係長，秋山管理係長，河内管理係員

計 4 名

（●事務局 ○部会長代理 □委員）

●開会宣言

会議時間・資料確認，欠席委員の報告，施設業務運営委員会管理運営部会担当職員の自己紹介。

●部会長による議事進行

●事務局

平成 25 年度第 2 回施設業務運営委員会管理運営部会（H25. 7. 4）での意見・今後の予定について・優秀な非常勤職員人材の確保に係る実施状況及び課題について説明。

○部会長

ただ今，事務局から，前回部会での意見等について，説明があった。

この点を踏まえて，本日の審議を進める。前回いただいていた意見の中で今回の審議対象とならなかった点については，今後別途検討を進めることとさせていただきたい。

○部会長

それでは議題 1 点目の議事に入る。

<議 題> 1 優秀な非常勤職員人材の確保

●事務局

今年度採用の非常勤職員の雇用期間，業務内容，現時点での成果，課題について説明。

また，常勤職員として特命事項（青少年教育施設を活用した国際交流事業）を主に担っていただく職員募集について説明。

○部会長

優秀な非常勤職員人材を採用した上での課題、来年度からの常勤職員として特命事項を担っていただく人材募集（案）について説明があった。

今回の部会では、大雪における優秀な非常勤職員の人材の確保の方策の一つとして、退職職員の採用という結論を部会として機構本部へ提出すること。

また、現時点で課題とされている事項の解決策を見いだすこと。退職教員以外の民間人材の常勤職員としての雇用、特に若手職員の確保方策。常勤職員募集（案）を本日承認いただければ早速公募に入りたいこと。また、部会委員から推薦をお願いしたいことなどについて、意見をいただきたい。

□委員

通学合宿で支援を求める市町村はたくさんあると思うが、非常勤職員が出向く機会はあるのか。

●事務局

今回採用した非常勤職員は出向いていないが、今年度は職員が通学合宿に企画段階から参画し、積極的に支援を行っている。

□委員

通学合宿は小さな町では、本当に進んでいる。支援を求めているのでとてもいいこと。

●事務局

交流の家にも良い施設設備があるので、是非、活用していただきたい。

優秀な非常勤職員人材を採用していく上で、管理職経験のある退職した校長先生の採用を進めていきたい。

□委員

退職した校長が、特命の業務を担うならば、常勤職員の人材育成にもかかわってはどうか。

●事務局

課題でも上げたように、業務内容が見えにくいのが現在の状況。

○部会長

業務内容が見えにくい状況があったとしても、お互いのスキルを交換しあえる関係が必要。

●事務局

今回雇用の任期を延長したので、部会の意見を参考として改善していきたい。

○部会長

若手職員の確保方策，常勤職員募集（案）を本日承認いただければ早速公募に入りたいこと。また，部会委員からの推薦もお願いしたいと考える。委員の意見をいただきたい。

□委員

3年間とあるが，期限付きの常勤職員で若手職員は来るのか，その職員のその後はどうなるのか不透明ではないのか。

●事務局

3年という条件の中で，この施設で自分のスキルを上げ，次の職場を求める人材はいる。

扱いは常勤の取り扱いで，任期が3年ということ。

例えば，非常勤では職員宿舎には規程上入居できないが，常勤職員では入居できる。

3年間は規程上，常勤と同じ対応になる。

○部会長

3年間という条件はあるが，本人が大雪と言うステージで，スキルを身につけるということを考えれば，3年間は決して短くはないのかとも感じる。その間にスキルを磨く機会と考える。

3年間は短いと考える方もいるが，この機会がチャンスと考える方もいる。

●事務局

道立の施設は，指定管理者制で実際に民間の方々で運営している。

その方々の要望の一つには，国立での職員の資質向上，職員との交流を行いながら国立で勉強してほしいという声もある。この制度が確立し，実現できるよう委員の皆さんの協力をお願いしたい。

○部会長

たくさんの御意見に感謝する。

優秀な非常勤職員人材の採用については，今後の課題も含め機構本部へ提出することで本日承認いただけるか。

また，常勤職員の募集については，募集要項について一部字句等の修正があることも含め承認していただけるか。

□各委員

承認

●事務局

常勤職員採用時には，適任者がいれば是非，周知していただきたい。また，委員の推薦もいただきたいと考えている。選考手続きにおいて委員に面接委員等をお願いする場合もあるので，その際は承諾いただきたい。

○部会長

議題2点目の議事に入る。

「50周年（平成28年度）に向けての寄附金の確保」について事務局から説明をお願いしたい。

＜議 題＞2 50周年（平成28年度）に向けての寄附金の確保

●事務局

50周年事業について、検討ワーキンググループを設置した。

ワーキンググループの当面の予定、他施設及び機構本部との事務打合せ及び資料収集。

記念事業の流れ、記念式典・記念祝賀会・記念建物の建設・寄附金の公募・記念イベント・来所
〇〇〇万人イベント・50周年記念誌作成等について説明。

事業を実施するに当たって、民間企業及び個人から協力をいただくため、「御支援と寄附金のお願
い」（案）を50周年向けに作成した。

今回の事業実施規模は大きいので、委員の皆様から内容等について意見をいただきたい。

また、寄附金の依頼先等についても、同様に意見をいただきたい。

○部会長

事務局から、50周年に向けての寄附金の確保に当たり、50周年記念事業の準備状況、50周年
年行事案、前回の意見を踏まえた寄附金の趣意書等について説明があったが、意見・質問があれば
発言願いたい。

今回の部会では、早速企業訪問等を開始するに当たり、寄附金の趣意書の内容について意見をい
ただき、修正を加えること。また、企業訪問先に対する意見、追加訪問先など加えることについて
意見をいただきたい。

□委員

小・中・高校生のときに交流の家を利用した方々へのPR、交流の家を利用したことがある方に
っては、なつかしい思い出があるので、支援の広がりが出てくる。

ホームページ、ツイッター、フェイスブック等有効に利用して、時間をかけ幅広くアピールする
ことも必要。

○部会長

ホームページ、ツイッター、フェイスブック等の利用について、交流の家では制約はあるのか。

●事務局

特にないと考えるが、フェイスブックはすでに始めており、広報部会で検証検征を行うこととし
ている。

○部会長

ネットワークは広がるが、使い方を間違えれば大変なことにもなる。

●事務局

広報部会、事業部会と打合せをした後、事業を展開していきたい。

□委員

学校でも実施しているが、毎日実施するのではなく、例えば「毎週月曜日」など曜日を決めて情報を発信する方法もあるので検討してはどうか。

○部会長

北海道全域の留学生と日本の青年をターゲットにした国際交流イベント（全道4地域）とあるが、他施設で実施した実績はあるのか。

●事務局

今、収集している情報の中ではない。「人材」の議題の時に説明したが、国の政策としても、青少年教育施設を活用した国際交流事業は一つの目玉である。

大雪でもこの事業を広げていきたいと考える。

現在、北見工業大学、帯広畜産大学と打合せをしている。

野外炊事棟を建設する目的で寄附金を集めた場合、資金が不足し実現できなかった場合を考えなければならない。目的変更となるので、寄附者全員に説明が必要になることから、委員の意見を伺いたい。

□委員

寄附をする側は、どのような目的で寄附金が使われるのか使途の目的をイメージできる表現でなければならない。目的外に使用するという表現は、好ましくないと考える。

国際交流をメインにして、地域の子供達を集めて交流する。

建物は魅力的だが、あまりにも高額なので難しい、これを機会に国際交流で地域との交流の機会が増えることが期待できる。また記念誌にも高額な費用がかかる。

●事務局

総予算についても、現在検討中である。本部へ行った際、特別予算の配分について確認をする。

委員の皆さんの意見を聞いて寄附金の目的は、事業に絞って考えた方が妥当と判断し、再検討させていただきたい。

大学法人での記念式典はどのような運営で行われたかお聞きしたい。

□委員

資金面は、同窓会、職員OB、職員の寄附で行った。長期間10年単位で積み立てている。

記念誌がメインになっていて重要な記録となっている。

○部会長

コスト削減で、DVDやスライドショーに替えている機関もあると聞いている。

上の世代には、若干拒絶反応もあるようだが、やはり記念誌は製本された物で頂きたいという意見も根強い。

●事務局

寄附金目的は事業に絞って、再検討し後日お示しする。

寄附金の訪問先は、上川管内をメインとしているが、全道に広げた方が良いのか委員の皆さんの意見を伺いたい。

○部会長

今まで、お付き合いのあるところ、これからお付き合いするところもあるので、中小企業等にも声掛けする方法もある。依頼先リストにもあるが、その団体から情報をいただき依頼先を増やしていく方法もある。いろいろな機会や場面で話をすることが大切。

●事務局

北海道代表する企業等は、積極的に訪問していきたい。

○部会長

リストに書かれている依頼先を訪問して連携を深めていくことで、今後の広がりも期待できるのではないかと。

●事務局

寄附金の下山プロジェクトを行う。

○部会長

多くの意見に感謝する。

リスト一覧にある団体等を訪問し、所属企業等への依頼方法について確認を行った上で開始してはどうかと考える。

●事務局

50周年記念事業については、事業部会、広報部会にも関わることなので、引き続き連携を取りながら審議していきたいと考えている。

○部会長

議題3点目の議事に入る。

「昇給基準」について事務局から説明をお願いしたい。

<議 題> 3 昇級基準

●事務局

国立大雪青少年交流の家「昇給基準」に関する取扱要領（案）に基づき説明。

先日、各職員へも意見質問があるか確認し、勤務状況の「良好」「良好」でない及び「著しく良好でない」の判断基準があるのかとの質問があった。運用するに当たり、機構本部とも協議して決めていく。

○部会長

私ども民間企業でも、やっているようで、やっていないのが現状。

ただ今、事務局から、「昇給基準」の取り扱いを制定することについて説明があった。

本件は、昇給の根拠となる職員への「指導・注意」の方法について明確に規程化するものである。何か意見・質問があれば発言願いたい。

□委員

どのようなイメージととらえたらよいのか。

例えば、昇給は一年に一回とか。

●事務局

例えば、注意、指導の内容については、昇給期間に、注意、指導を受けたにもかかわらず、勤務成績が良好でないことを示す明白な事実が見られた場合の例示に示された内容になる。

まずは所長と次長で判断し、それを本部へ上げて行くことになる。

懲戒処分とは、また違う取り扱いとなるが本部と十分協議して整備していく。

□委員

注意、指導を受けたにもかかわらず、業務に支障を生じさせた場合、私どもの職場でも管理監督の責任も問われる。それよりも更に踏み込んだ形なのか。

●事務局

明白な規程があるのだから、それをどのような形で示すか。機構本部が示すことができないので、現場で示し機構本部へ上げ整理する。

□委員

標準的には1月1日が昇給日だが、学校では、期末勤勉手当の基準日に教頭、校長が勤務評価を行なっている。そういうものとは違うのか。

●事務局

1年間の勤務成績で判定する。期末勤勉手当の基準となる調査はくるが、他はなく勤務評定については「人事評価シート」試行で2年間行い、今年10月から正式実施となっている。業務評価と能力評価を実施している。人事評価は給与に反映していくのが目的の一つである。

○部会長

取り扱いについては、慎重に扱うとともに、昇給の取り扱いを制定することについて説明があった。

本件は、昇給の根拠となる職員への「指導・注意」の方法について明確に規程化するもの。
他に意見・質問をお願いしたい。

□委員

なし

○部会長

特にないようであれば、承認とさせていただきます。

○部会長

議題4点目の議事に入る。

「平成25年度運営計画の変更」について事務局から説明をお願いしたい。

<議 題> 4 平成25年度運営計画の変更

●事務局

国立大雪青少年交流の家「平成25年度予算計画」平成25年11月12日変更に基づき説明。

○部会長

事務局から運営計画に定められた予算計画を変更することについての説明があった。

その中で、障害者雇用の話があったが、経緯について説明をお願いしたい。

●事務局

今年3月まで、1名を雇用していたが、自己都合により退職。3月に募集をハローワーク等にしてしたが、応募者はなく、4月からは採用ができなかった。再度募集したところ、2名の応募があり7月1日に採用することができた。

「体験の風をおこそう」運動の仕事を中心に行っている。

追加予算配分、予算の弾力的な運用に伴い、当初予算計画から変更が生じているため、機構本部へ手続きとして変更を届け出るものとなる。

○部会長

何か意見・質問をお願いしたい。

□委員

なし

○部会長

なければ、承認とさせていただきます。

○部会長

議題5点目の議事に入る。

「平成25年度業務実績に係る自己点検評価」（上半期）について事務局から説明をお願いしたい。

<議 題>5 平成25年度 業務実績に係る自己点検評価（上半期）

●事務局

国立大雪青少年交流の家「平成25年度業務実績に係る自己点検評価」（上半期）に基づき説明。

○部会長

事務局から業務の実績に係る自己点検評価についての説明があった。

本件は、上半期の状況として設定した目標の進捗度の度合いを計り、下半期に向けての努力事項を確認することに併せ、機構本部へ説明する予定。

内容を確認いただき評価の原案について承認いただいた後、部会としては確定させたいと考えている。

本日は、内容について意見・質問をいただき、評価は、お帰りになってから確認していただき、11月19日（火）までに事務局の指定FAX又は変更が無ければ電話連絡をお願いしたい。

●事務局

12月4日（水）に機構本部において管理運営の在り方等に関する調査研究協力者会議が開催される。その時に、進捗状況の説明を求められていることから、大雪の添付資料として自己点検評価表を提出したい。また、評価基準も今後作成していきたい。

○部会長

議題6点目の議事に入る。

「その他」について事務局から説明をお願いしたい。

<議 題>6 その他

●事務局

その他「保有施設等の利用状況等調査」に基づき説明。

○部会長

事務局から保有施設等利用状況について説明があった。

機構本部から依頼のあった調査内容及び「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」及び機構の中期計画に基づき、大雪青少年交流の家の保有している資産・借地等について、必要最小限のものとなっているか、有効活用されているか不断の見直しの確認が厳しく求められているところ。大雪の所有地・借地は、全て利用者が使用している活動場所であり、有効活用されているものと思うがいかがか。

□委員

特になし。

○部会長

なければ，承認とさせていただきます。

●事務局

最後に，本日配付した月別団体数及び利用者数比較表（H24／H25）

施設別・利用者アンケート集計結果一覧，当施設を利用されての総合的な満足度に基づき説明。

会議終了

閉会挨拶

閉会宣言